

平成26年度初期臨床研修医マッチング結果について



平成25年度 臨床研修病院合同説明会の様子

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 **山口 高史**

(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター副院長)

平成26年度の初期臨床研修医のマッチングに関しては、昨年より21名増加し147名となり過去最高の研修医とマッチングすることができました。この結果、地勢や人口動態からよく比較される同規模県である広島県とほぼ同じになったことは非常に喜ばしいと感じています。

一方、昨年の、医道審議会医師分科会医師臨床研修部会では、地域偏在を是正する目的で都道府県別の研修医の募集定員の上限定方法の見直が討議されました。これによれば研修医の全体の定員について、2015年度は約

1.2倍、次回見直し（2019年度）に向けて、徐々に約1.1倍とする方針が提示されており、今後、今までの売り手市場から一変する可能性もあります。現況を鑑みても本県がより多くの研修医を獲得する絶好のチャンスとなりつつあります。

いずれにしても、本県の初期臨床研修環境をよりよく整備するとともに、より多くの初期研修医に研修してもらえるよう関係各位のご協力をお願いいたします。

臨床研修医マッチングの実績状況

単位：人

	平成26年度						平成25年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	11,004	4,881	6,123	8,399	3,672	4,727	10,489	4,802	5,687	7,979	3,603	4,376
茨城県	210	94	116	147	91	56	186	93	93	126	71	55

平成26年度茨城県臨床研修病院合同説明会開催します！

医学生皆さんの情報収集の場を提供するため、茨城の臨床研修病院が一堂に会し、合同説明会を開催します。全国屈指の充実した指導体制と魅力ある研修プログラムをご紹介します。皆様のご参加をお待ちしております！

〈平成28年度採用向け初期臨床研修病院合同説明会〉

- 日 程** 平成27年3月15日（日）
13：00～17：00
- 場 所** イーアスホール（イーアスつくば内）
- 内 容**
 - 本県の医療事情の説明
 - 各病院プレゼンテーション
 - 病院別ブースによる個別相談
などを予定しています。
- 対 象 者** 医学生



【レジナビフェアスプリング2015 in 東京】

レジナビフェアにも出展いたします！

日時：平成27年3月22日（日）10:00～17:00

場所：東京ビッグサイト

「人が集まってくる環境づくりの大切さを学んだ沖縄研修」 平成26年度指導医団国内派遣事業に参加して～

平成26年10月1日から11日にかけて、沖縄県で開催された指導医師団沖縄派遣事業に参加された山田理仁先生にお話をうかがいました。

…沖縄研修に応募された動機は？

まず、私が勤務している水戸医療センターには、初期研修医が10名程おり、私は普段は循環器内科医で、初期研修医と二人で病棟と診療のチームを組んでいます。他の施設との違いについて知りたいと思い、先進的と言われる沖縄の研修を見てみたかったです。

●沖縄の研修医教育を実感した充実の11日間。

…研修の内容と参加されての感想は？

私は、今回の研修の全スケジュールに参加しました。最初は、研修医教育で一番重要な、沖縄県立中部病院での研修でした。同った話では戦後の沖縄は廃墟と化し、医師もほとんど生存しておらず、県全体でも医師が60人ぐらしかいない状況だったそうです。そういう中で住民は医療を必要としていましたから、要望に応えるために琉球政府が設備投資をして、住民の要望する救急医療を中心に担う医師を、公務員として確保する政策がとられました。このER型救急を中心に据えた病院が、沖縄県立中部病院の基礎になっています。

当時の沖縄は、日本の医師免許がすぐに取れるという状況ではなく、とにかく内地から医師を集め、できるだけ早く育てて一人前にし、近隣の離島まで派遣しなければならなかった。そのため、インターンが常に重要なポジションになり、その教育に今も全エネルギーを注いでいます。中部病院には1年目、2年目の研修医60人もいて、それがすごい戦力でもあるし、一大勢力なのです。

ER型救急が目玉で、一次から三次まで要請があれば100%受け入れます。その代わり、外来だけで入院は受け持たない。ローテーションを組んで、交替しながら病棟なしの勤務で救急をやっているのです。その主力が初期と2年目の研修医、それをレジデントが統括し、必要な状況になった時に、スタッフが控えているというシステムでした。先輩医師が後輩医師を教えるという流れが次々とできていく、これが屋根瓦方式の指導というものです。

入院部門は、当院と同じく各科専門科でやっており、各科では入院時になんでも対応する“ジェネラル担当”を決めています。比較的若い人がその役割回りになっていて、ERから入院が必要な患者が出ると、ジェネラル担当が引き継いでくれます。

普通の病院だとなかなか受け持ちは困難な症例でも、嫌な顔をせずに引き受けてくれます。そういう人たちが後ろに控えているので、ERが成り立っている状況でした。

中部病院のようなER型救急には、何人くらいのスタッフが必要なのかを尋ねたところ、常勤とレジデントと合わせて14人の医師が確保できないと難しいと言われました。相当ハードルが高いですね。

…水戸医療センターで生かしていきたい部分は？

ER型救急は100%無理ですから、全く同じようなことはでき

独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター
循環器内科医師・救急部医師 **山田 理仁**

ない。研修医の数も圧倒的に違います。でも、それぞれの科のジェネラルが入院を引き受けるというスタイルはいいことだと思いました。ここだけは、こちらでも真似できそうです。

…その他の研修は？

日本最大の施設である、おきなわクリニカルシミュレーションセンターに行きました。ここでは、多職種間のチーム医療におけるリーダーのスキルを勉強するコースを受講しました。シミュレーションに関しては、医療業界ではなかなか普及しないのが現状ですが、絶対に必要なことだと思います。多職種が集まって行うトレーニングなので、他でも生かせるスキルだと感じました。私たちの方でも、救急医学会のコースでICLSというコースがありますが、そういうものをここで開催しています。さらに、JATECという外傷のコースや、JMCCという最近内科学会が力を入れているコースもありました。私も携わる機会があるので、トレーニングが受けられたのでよかったです。

その後、新築されて2年目の県立宮古病院に行きました。宮古島は人口が54,000人ほどで、島唯一の総合病院なので、基本的には要請されれば全部受けなくてはならない。茨城県と同じように、地元の医師会の人たちが夜間休日診療所をやっていますが、その診療所が宮古病院の建物の中に入っており、一次救急は地元の医師会の先生が土日や夜間に対応し、それ以外の重症の二次救急、重症の三次救急を宮古病院のスタッフが対応するというように、上手く分担しています。なかなか基幹病院施設内に医師会の先生の派遣体制が整っているところを見ないので、すごい試みだと感じました。

あと驚いたのは、地域医療研修枠というものがあるのですが、青森県とか北海道から研修医が地域医療研修枠で宮古病院に来ているのです。遠方から宮古病院まで来て、研修していくのです。そういうのが、羨ましいと思いました。

最後はもう一度沖縄本島に戻り、臨床研修病院プロジェクトの郡星（むりぶし）沖縄プロジェクトの研修見学をしました。1つの基幹病院だけでなく、8つの研修指定の基幹病院と20の協力型病院が集まり、集団で研修事業に携わるというプロジェクトを実践しています。研修医を受け入れている病院を、いくつか回り実際の研修状況を確認しました。28病院それぞれの、得意な領域を研修できるようにアレンジしてあるので、病院群としてそこへ研修に行くことで、全科の研修が受けられる。病院としても、しっかりとサポートを得られている研修医に、得意な分野を教えてあげれ



ばいいので負担が少ない。各病院が力を入れている分野に参加するので、研修医にとってもメリットがある。そういうことを各病院から要員を募った事務局で上手く調整してやっているシステムでした。宮城征四郎先生がリーダーとして、病院群のなかでまとまった回診をやっており、一律に同じ教育を受けられ、病院の得意分野を見ながら、自分の希望とする病院を選んでいけるというなかなか面白い形です。そこもやはりフルマッチしているのです。

中部病院だけではなく、沖縄県の中で病院群を形成するような研修スタイルが確立しているのです。いずれの研修病院も、研修医を一人ひとり大事にしているという印象をすごく受けました。

…沖縄は医師は不足していないのですか？

離島でも、アクセスの悪い地域は大変なようです。ある程度人口がある宮古島とか沖縄本島などはシステムとして完成されていますから医師は足りています。そもそも救急要請が全部受けられるという体制が取れている訳ですから、完結できていますね。それも2年で育てて離島に派遣する。沖縄の研修医の7割近くは内地から来るのですが、半分ぐらいは内地に戻りあとは沖縄に残るそうです。そういうことで、県としてもメリットになっているようです。

●専門性や特色を生かした活動を広げていきたい。

…医師としての仕事のやりがいとは？

医師の仕事に限らないのですが、頼りにされた時に応えられるのはうれしいです。実際に普段の仕事で、私は循環器内科と救急という実感しやすいところにいますので、こういう仕事をして良かったなと思います。

水戸医療センターの救急は救急だけの専門メンバーではなく、それぞれ自分の専門科のある人たちが集まっています。私も循環器内科としてそこに入っており、短いスパンで動いていくし、ド

クターヘリでも出動します。ドクターヘリではみんなが色々な経験ができるように、また効率的に活動をするために、医師二人で乗っています。そういう経験も他では得られないものがあります。自分の特色を生かせる活動が、少しずつできるようになってきています。

…今後の展望について

地域に潜在している様々な医療ニーズに応えられるようなシステムがまだ完成していないと思います。コメディカルとの連携をもう少し上手くできれば、もっと地域に応えられると思うので、その担い手の一人になればと思います。もちろん、医師不足への対応も地域のニーズですから、研修医の指導にもさらに取り組んでいきます。

あとは個々の専門性が上手くつながり有力になるよう、そこに関わっていければと考えています。

●地域のニーズに応えられる医師に育てて欲しい。

…若手医師、医学生へメッセージを

今回研修に行った沖縄は2年間で完結できるシステムで、これは2年でやっていこうという人たちの流れに合わせてデザインされています。一方で、5年以上かけてゆっくりと、地域のニーズに応えられるような医師に育てていくやり方もあっていいのかなと思います。当院はそういう人たちのニーズに叶った研修をデザインできる病院だと思います。それに、この病院の規模で医師が実働部隊70人程度というのは、すごく少ないのです。貴重な戦力になってくれる人がいると非常にありがたい。地域で少し長い間やっていきたいという指導医の先生がいてくれると、我々も助かりますし、いい研修ができると思います。人がどんどん集まってくるような環境が作れるといいし、作っていきたくと思っています。

病院紹介コーナー

筑波メディカルセンター病院

『いかなる状況でも目の前の患者さんと真摯に向き合える医師を養成する』

医師の仕事には、病棟・外来・ER・災害現場など医療を必要とする様々な場面が存在します。当院の研修プログラムでは、どんな状況におかれても立ち往生せず、自らの技量と能力を最大限発揮できる医師を育成することが理念として掲げられています。とりわけ、救急医療の分野は研修医にとって貴重な鍛錬の場です。ER型救命救急センターとして、年間約38,000人のwalk in救急患者と4,700台以上の救急搬送に対応するなか、研修医は上級医の監督のもと救急外来を担当し、基礎臨床能力を身につけていくことができます。Walk inの患者さんは様々な症候を持ち重症例も含まれるため、診療分野に片寄りのない診察能力が求められます。そこでスーパーローテーション方式の単一プログラムを継続し、内科・外科・救急・小児・産婦人科・麻酔科・精神科・地域医療などを万遍なく経験することが特徴となっています。初期研修の2年間は、臨床医としての姿勢や将来を決定づける土台となる非常に重要な時間です。症例の多さだけでなく、一つ一つの症例を丁寧に指導できるインテグレートされた教育体制の下、ともに成長していきましょう。



研修医Relay Essay 柳橋 進

茨城県立中央病院

初期研修医 柳橋 進



県立中央病院で研修を始めて早いもので1年半が経ち、当初は慣れなかった病棟業務も今ではそれなりにこなせるようになってきました。当院では先生方に非常に熱心に指導していただけるので、これまで医師としての基盤をそれなりに形成できたのかなと感じています。ただし、もちろんただ教えを請うだけでなく、自分なりに経験は反芻して様々な学術書、論文を基に蓄積していくことが医学を扱う上では重要ですし、一生涯必要だとこの1年半でより強く感じるようになりました。

その他、当院では週1回程度で研修医が救急外来の当直を行います。歩いて来院されてもcriticalな症例も多く、自身のとる一つ一つの行動に責任があることを学ぶことができました。加えて外来診療を行うことのできる数少ない場でもあり、指導医の先生方にフィードバックを行っていただけるため、当直の経験は大きな糧となったと思います。

また、医師として働くようになって一層コメディカルの皆さんの支えがあってはじめて医療は成り立つことを実感しました。学生の皆さんはこれから医療従事者となるにあたって大きな不安もあると思います。確かに時に辛い事もありますが、医療は奥深く、学ぶだけ人を笑顔にできる素敵な仕事だと思うので、気合を入れて乗り込んでください。共に働ける日々を心待ちにしております。

茨城県からのお知らせ

平成27年度自治医科大学医学部入学試験のご案内

自治医科大学医学部入学第1次試験を行います。受験を希望される方は、下記により出願書類を提出してください。

出願期間

平成27年1月5日(月)～1月21日(水) 午後5時必着
※消印有効期限は1月20日(火)

出願書類の提出先

〒310-8555
茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県保健福祉部医療対策課
電話 029-301-3191 (直)

提出方法

書留速達郵便、または簡易書留速達郵便にて提出して下さい。

第1次試験

学力試験 平成27年1月26日(月)
面接試験 平成27年1月27日(火) ※学力試験及第者のみ実施

試験会場(両日とも同じ)

茨城県市町村会館(茨城県水戸市笠原町978-26)

第1次試験合格発表

平成27年1月30日(金) 午後1時

第2次試験日・合格発表日

※第2次試験は、平成27年2月5日(木)に自治医科大学で実施します。
(第2次試験合格発表日 平成27年2月13日(金)午後5時)



茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp